



世界の動き身近な話題

中日新聞

**さんぽみち**

JUST meet!  
ジャストみ~て!

かわら版さんぽみち編集局

〒918-8116 福井市大町2-206-1 福井広報センター内  
TEL 0776-28-8619・FAX 0776-28-8602  
Eメール osanpo@fukuiko-ho-c.co.jp

県民福井 30周年

日刊県民福井 舟部社長

日刊県民福井



**日刊県民福井 30年記念**

2023プロ野球セ・リーグ公式戦 福井・武生・敦賀 発着 協賛: 中日新聞・日刊県民福井 販売店 特別企画

バンテリンドームナゴヤ観戦バスツアー【日帰り】

**中日×広島**

先着80名様

申込締切は6月22日(木)

応募多数の場合は先着順とさせていただきます。  
庄園側は、先着 20 名様です。

旅行代金(おひとり様)/大人・子ども同額

8/13(日) 14:00~

15,800円 税込

集合場所(往復バス利用)集合予定時間

①JR福井駅東口 8:50  
②道の駅越前たけふ 駅西交通広場 9:10  
③敦賀駅前 9:55

お問い合わせ・お申込み

TEL 0778-78-0903 FAX 0778-21-0704

旅行企画実施 福井鉄道株式会社 〒915-0802 福井県越前市北府2-5-20

各出発地の集合時間は、約2週間に亘り案内させていただきます。

■最少催行人員/5名以上食事なし/バンテリンドームナゴヤにてお弁当付き企画/日中新聞・日刊県民福井販売店と連携して企画/旅行代金には、往復バス代、野球観戦チケット、お弁当代が含まれます。小学生以上は同額となります。尚、未成年の方の参加はできません。

■6月1日(木)より受け開始

※お申込みの際は、当社ホームページ掲載の旅行条件書(全文)をお読みいただき、事前に内容をご確認の上お申込みください。

中日新聞・日刊県民福井の購読のお申し込みは **0120-888-291** 午前9時30分～午後6時(平日)へ

# 道の駅特集



子どもに人気  
アラレガコ ピーナッツ

イワナやヤマメのほか、希少な淡水魚で国の天然記念物に指定されている「アラレガコ」がいるよ。ここ市内の「本願清水イトヨの里」にしかない、淡水魚のビンバッヂのガチャガチャもあるよ。何が出るかな~

買って、食べて、体验して、遊べる。  
誰もが1日中楽しめる滞在型道の駅です

駅長の清水和英さん

●大野市蕨生137-21-1  
①0779-64-4500  
●午前9時～午後6時(冬季は午後5時)  
※その他各テナントにより営業時間が異なる  
●年末年始 ①あり RVパークあり(要予約)  
●ホームページで情報発信中

## 道の駅 越前おおの 荒島の郷

大野市の中部縱貫道荒島インターチェンジ(IC)すぐ、福井県の東の玄関口としてございの拠点であり、全国で初めて地域の避難場所や防災拠点となる「防災道の駅」に指定された。グルメやショッピングはもちろん、奥越の雄大な自然を味方につけた立地と約5万kmの広大な敷地が魅力。モンベル大野店を併設し、カヌーやボルダリング体験も(申し込み制)。地域の農産物、加工品生産者が大野市の2つの道の駅に自由に出荷できる「大野市道の駅直の会」を立ち上げ、利用者は駅内の「荒島マルシェ」で年間を通して新鮮な野菜や加工品を購入できる。



大野産コシヒカリの米粉100%で作った  
バームクーヘン。米粉から道の駅で  
作っているよ。切り株のような見た目もかわいい。  
フワフワのソフトタイプや小さい  
サイズもあるよ。(※夏季は湿度などの関係で  
お休みする場合があります)



大野といえばやっぱりとんちゃん! みそラーメンの上に  
シャキシャキの野菜とプリプリのとんちゃんがたっぷり。  
みそ味との相性もバッチリ(午前10時30分頃から提供開始)

※価格はすべて税込み

※プレゼントの応募方法は中面をご覧ください。

さんぽみちは皆さまの声でできています。「気にならぬお店」や「取材したいほしい人」など、最寄りの販売店またはさんぽみち編集局へ!

## 旅の楽しみが広がる 道の駅「記念きっぷ」コレクション

道の駅が遠方からだけではなく近隣地域からも人気のお出かけスポットになっているのはご存知の通りだが、道の駅で販売されている「記念きっぷ」の存在を知っている人はそれほど多くないかも。

訪問した日付を打印してもらえることから、記念に求める人や収集を楽しんでいる人が実は多いのだ。福井市北四ツ居町の笹岡奉夫(ふみお)さん(80)も20年以上にわたってコレクションを楽しんできた一人。笹岡さんは妻とともにコレクションを目的の一つにしたドライブ旅行を本格的に始めたのは退職後からで、北陸三十三観音霊場の神社仏閣御朱印巡りがスタートだったという。その後、道の駅に記念きっぷ(当時の呼称は「記念入場券」)があることを知り、旅の途中には必ず道の駅を訪問するようになった。笹岡さんは「道の駅は24時間駐車できてトイレもあるので仮眠をとるのもってこい。その地方の観光情報も手に入る。地元の観光地や立ち寄り湯を楽しめ、交わった人から郷土料理の口コミ情報を仕入れることも。ディープな楽しい旅を堪能できたのは道の駅の存在があるから」と話し「旅そのものが楽しいのは言うまでもないが、目的があるとさらに楽しみが広がる。記念きっぷのコレクションは旅行の楽しみをさらに広げてくれた」と振り返っていた。

(②全国の道の駅がすべて記念きっぷを販売しているわけではありません)

